

## 第32回日本・ASEAN経営者会議

(2006年11月13～15日 インドネシア・ジャカルタ)

「ASEAN10+3」の枠組みの企業経営者による会議が初めて実現

昨年11月13～15日、インドネシアのジャカルタで、「第32回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM)」が開催された。「域内貿易と企業の為の公正なフレームワークの構築に向けて：—経済成長における社会的コストと環境コストを考える—」をメインテーマとし、総勢100名の企業経営者が活発に意見交換を行った。日本からは、北城格太郎代表幹事をはじめ17名の経営者が参加。アジア委員会委員長の榎田松瑩氏が共同議長を務めた。

今回のAJBMで特筆すべきことは、初めて、ASEAN10カ国すべてから参加者があったことである。なおかつ、発言権のあるオブザーバーとして中国（初参加）と韓国（前回から参加）の経営者も加わり、民間ベースで「ASEAN10+3」の枠組みの会議が実現した。AJBMの歴史の上でも、東アジアの国際交流という面でも、非常に意義の大きな会議だったと言えよう。



### メインテーマ

「域内貿易と企業の為の公正なフレームワークの構築に向けて：—経済成長における社会的コストと環境コストを考える—」

議長：H. Kusnaeni・AJBMインドネシア国内委員会 委員長  
(インドネシア・日本企業家協会 専務理事)

実行委員長：Kusumo A. M.・インドネシア商工会議所  
日本インドネシア経済委員会委員長 (カトゥル・ヤサ社 会長)

共同議長：榎田 松瑩・アジア委員会 委員長 (三井物産 取締役社長)

## 1. 歓迎レセプション

1日目の歓迎レセプションでは、ASEAN事務局副事務局長 Nicholas Tandi Dammen氏がゲストスピーチを行い、「日本企業はASEANの各種の協力スキームを十分活用している。今

後、『日本・ASEAN包括的経済連携協定 (AJCEP)』による日本からの投資が促進されると考えている」などと述べた。

## 2. 開会式

ユスフ・カラ副大統領の招待で、第32回AJBMの開会式は、

### ●日本側会議参加者 (◎：委員長、○：委員長代理、◇：副委員長)

北城 格太郎 (経済同友会 代表幹事／日本アイ・ビー・エム 取締役会長)	清田 瞭 (大和証券グループ本社 取締役副会長)
◎榎田 松瑩 (三井物産 取締役社長)	河野 栄子 (リクルート 特別顧問)
○萩原 敏孝 (小松製作所 取締役会長)	林 明夫 (開倫塾 取締役社長)
◇梶 明彦 (ジャルパック 取締役社長)	山口 千秋 (トヨタ自動車 常勤監査役)
◇菅田 史朗 (ウシオ電機 取締役社長)	唐澤 佳長 (帝人 取締役副社長)
◇竹田 駿輔 (オリックス 取締役兼執行役副会長)	川村 嘉則 (三井住友銀行 常務執行役員)
◇玉越 良介 (三菱東京UFJ銀行 取締役副会長)	河邊 富男 (松下電器産業 役員、アジア大洋州本部長 [パナソニックアジアパシフィック 社長])
加瀬 豊 (双日 取締役副社長執行役員)	藤井 紘一 (日揮 常務取締役)
門脇 英晴 (日本総合研究所 理事長)	

(敬称略・役職は2006年11月9日現在)

副大統領宮殿で行われた。

初めに、Kusumo実行委員会委員長が開会挨拶に立ち、「貿易と企業のための公正な枠組みを実現していくには、まず先進国と途上国との格差を除去する必要がある。経済発展や成長の代価として、取り残され疎外される人々を取り巻く環境に対処することを忘れてはならない」と述べた。

これに対し答礼挨拶を行った北城恪太郎代表幹事は、「東アジア諸国が試練を克服していくためには、まず、民主的な政治体制の確立に努めるとともに、国内の経済構造改革を促進して、新たなビジネスを生み出すことが大事だ。さらに、関係諸国間のFTA/EPAを促進することが必要だ」と訴えた。

続いて、安倍首相から会議に寄せられた、「ASEANの経済統合の加速、域内格差の是正をはじめとする共同体実現に向けた努力を、我が国は積極的に支援する」とのメッセージが披露された（代読は、海老原紳・駐インドネシア日本大使）。

最後に、ユスフ・カラ副大統領が基調演説を行い、「我が国の失業と貧困の問題への対処には、対インドネシア投資が必要

## ●会議プログラム

### 1日目

**歓迎レセプション** スピーチ Nicholas Tandi Dammen  
ASEAN事務局 副事務局長

### 2日目

**開会式** 開会挨拶 Kusumo 第32回AJBM実行委員会 委員長  
答礼挨拶 北城 恪太郎 経済同友会 代表幹事  
安倍総理メッセージ（代読：海老原 紳 駐インドネシア日本大使）  
基調講演 ユスフ・カラ インドネシア副大統領

#### 第1セッション「経済格差是正のための域内協力」

▽梶 明彦氏が議長  
▽竹田 駿輔氏がパネリストとして参加

**昼食会** スピーチ Mahendra Siregar インドネシア経済調整副大臣

#### 第2セッション「日本とASEANの経済協力の更なる強化」

▽菅田 史朗氏がパネリストとして参加

#### 第3セッション「FTA時代における中小企業の育成」

▽清田 瞭氏がパネリストとして参加

**閉会式** 挨拶 檜田 松瑩 共同議長

#### 経済同友会主催 夕食会

▽来賓：日・ASEAN大使、インドネシア政府関係者、  
現地日本企業（ジャカルタ・ジャパンクラブ）等

### 3日目

#### 記者会見

だ。政府は投資環境整備に全力で取り組む」などと述べた。

## 3. 第1セッション

第1セッションは、「経済格差是正のための域内協力」をテーマに議論を行った。アジア委員会副委員長の梶明彦氏が議長を務め、同じくアジア委員会副委員長の竹田駿輔氏がパネリストとして加わった。

討議の中で竹田駿輔氏は次のような見解を表明した。「経済的・制度的格差の是正なしに、

東アジア共同体の実現はない。経済的格差に関して経済同友会は、多国間援助方式の『東アジア地域開発基金構想』を提案している。制度的格差是正に関する喫緊の課題は、チェンマイ・イニシアチブのスワップ上限の拡大や、アジア債権市場拡充による通貨安定化の実現である。市場経済化支援のための新しい法制度の確立も必要だ」。

## 4. 昼食会

昼食会のゲストスピーカーとしてMahendra Siregar インドネシア経済調整副大臣が招かれた。副大臣は、ASEANと日本の経済関係の重要性に関し、政府の認識と企業側の見解、決定にギャップが存在するのではないかとの問題提起を行った。



閉会式でスピーチする檜田松瑩共同議長



答礼挨拶に立つ北城恪太郎代表幹事

## 5. 第2セッション

第2セッションでは、「日本とASEANの経済協力の更なる強化」をテーマに討議が行われた。パネリストとして、アジア委員会副委員長の菅田史朗氏が参加。菅田史朗氏は「環境」を重視する観点から次のような見解を述べた。「日本の環境先進企業は、イノベーションを誘発することで、利益率も高い。環境対応型経営を実践することが重要だ。日本は、環境関連の知識をASEANに正しく伝える義務がある。日本の個々の企業においても、環境配慮型工場を設立したり、関連ノウハウを移転することにより、進んだ経験を伝え、貢献することができる。日本・ASEAN間のFTA/EPA締結はこうした傾向を促進することになるだろう」。

## 6. 第3セッション

第3セッションは、「FTA時代における中小企業の育成」をテーマに掲げた。日本側からは清田瞭氏がパネリストとして参



写真上／日本からの参加者

写真下・左から／Kusumo A. M. 実行委員会 委員長、H. Kusnaeni 議長、Nicholas Tandri Dammen ASEAN事務局 副事務局長、萩原 敏孝 アジア委員会 委員長代理  
\*役職は2006年11月現在

加した。清田瞭氏は、「FTAが拡大する中で日本の中小企業は、少子高齢化を考慮し、グローバル化のコンセプトを軸に事業展開を図らなければならない」として、次のような見解を示した。「日本の現在のような人口動向が進展すると、企業は、供給と需要双方の安定的確保のために、海外事業の展開を選択せざるをえない。日本の中小企業は、国際展開能力を高め、アジアの成長を十分に取り込もうとしているところだ」。

## 7. 閉会式

閉会に際して槍田松瑩共同議長は、各セッションの討議を振

り返って次のように語り、会議を締めくくった。「①格差の問題は、まず定義を明確にする必要がある。その上で、規制的・制度的な格差を是正することが大事だ。②日本・ASEAN経済連携協定について、環境保護は経済連携の重要な構成要素であることが、討議を通じて明らかになった。③日本の中小企業が事業継続上の問題を抱えているのに対し、ASEAN諸国では中小企業育成が重要な課題になっている。こうした問題の解決の為に、ASEANの優良企業が日本の中小企業を買収するのをもひとつのアイデアではないか」。

### ●次回のAJBMは日本開催

閉会式では、2007年のAJBMを日本で、2008年のAJBMをブルネイで開催することが合意された（第33回AJBMの日程は2007年10・11月頃）。また、槍田松瑩共同議長は、後任として萩原敏孝氏を会議参加者に紹介。第33回会議の議長は萩原敏孝氏が務めることになる予定（経済同友会アジア委員会の委員長は、昨年12月、槍田氏から萩原氏に交代した）。

